

①ディレクトフォース

ディレクトフォースでは実際に社会に出てキャリアを積んでいる、笹川平和財団の皆さんから、お話を聞くことができた。その中で心に残ったことを書いていきたい。

始めに、グローバル化についてだ。日本では相手の気持ちを察する、いわゆる空気を読むことが大切になっている。「KY」とか言う言葉が生まれるように、日本人は空気を読むことに美德を感じる。しかし、外国は全く違うらしい。外国では自分の意見をしっかり言葉に出して言い、言葉で議論できることが求められるという。それが出来ない人は就職出来ないらしい。グローバル化の中で日本もそういう自分の意見をしっかり言葉に出して言える人材を求めている。そのため日本の企業の就職は今、外国人が増えているらしい。そういった優秀な外国人に日本人も負けてはいられない。ディレクトフォースで言われた言葉にこういうものがあった。

「君たちは回りにいる二高の生徒を、これからのライバルだと思っているかもしれないが、本当のライバルは世界中にいる。」

その通りだと思った。僕はこれまで二高の中しか見ていなかった。二高に来れば、優秀な人がいっぱいいて、その人たちから刺激をもらって、切磋琢磨できると考えていた。それ自体は全く間違っていないし、正しいことだと思っている。でも、よく考えれば、日本のなかにも二高より優秀な人が集まっている高校はいくらでもあるし、ましてや海外を見ればきりが無い。だから、そういう人たちに負けないように自分を高めていかなければならないと思った。

では、自分を高めるために何をするかということ、まず物事に積極的になることだと思う。一番初めに田中さんにお話をさせていただいたときの質問で、聞いている人が全員外国人ならば、かなり多くの方が、質問するために手を挙げるということを知った。自分にもそういった食欲が必要なのかもしれない。「二高には自分よりも優秀な人ばかりだから、きっと誰かがやってくれるはず」と自分には心の中でどこか人任せにしていたところがあったと思う。そういうところは反省して直したい。そしていろんなところで積極的になっていきたい。

次に外国語だ。話を聞いていると、今の時代、英語はできて当たり前であり、もうひとつの言語を話せると良いらしい。特におすすめは中国語やスペイン語らしい。僕は今、英語でけっこう苦戦しているところがあるので、しっかりと勉強したい。そして、英語を勉強するとき、テストで点数をとるためにやるのも大事だが、実践で将来使えるようにするのがもっと大事だと思うので、そういったトレーニングもしていきたい。

遠藤さんにお話させていただいたことは、つく職業をせまい世界だけで決めてはいけないということだ。「親が□□だから自分も□□になろう」とか「親に□□になれと言われたから□□になろう」というのは良くないという。なぜならその職業が自分で決めたものじゃないので、合わなかったり、自分に向いていなかったりするからだ。遠藤さんは職につくにあたって一番大事なことは、若いうちに様々な場所に行って経験を積むことだと言っていた。そうすれば、自分のつきたい職業や、自分に向いている職業が見えてくるらしい。僕はまだ自分の将来が全く見えていなく、科目選択も迷っているので、早く自分のやりたいことを見つけて、それに向かって頑張りたいと思う。

遠藤さんがもうひとつ言っていたのは、企業に就職する場合は、企業が何を求めているのかを考えることが大切だということだ。今の時代は良いアイデアを出せるかが大きな鍵となるそうだ。

先ほども書いたように自分の意見をしっかり持って発言することが求められる。

皆さんのお話を聞いていると、留学の経験がある方や、様々な職歴を持っている方が多々いた。それについて楽しそうに話っていて、良い経験になっているみたいだった。一度きりの人生だから色々なことに挑戦してみるのもいいなと思った。

笹川平和財団の皆さんのから、これからの人生に役立つ事をたくさん聞くことができ、とても貴重な時間となった。教えていただいたことをしっかりと実践し、生かしていきたい。

### ③OBOGによる懇談会

一日目の夕食後の懇談会では二高の先輩方からお話を聞くことができました。名前を聞きそびれてしまったが、文系の男の先輩から聞いたことについて書いていこうと思う。

その先輩はまずビールについて話始めた。最近キリンビールが売り始めた 47 都道府県で味が違うご当地ビールが、先輩がいうには見た瞬間「これは売れる」と思ったらしい。なんでそう思ったのかをテーブルの班員で考えると、「特別感があるから」「飲み比べたくなるから」「お土産になるから」「工場が作れるから」などの理由が出てきた。先輩に聞くと、全部正解であり、特に「特別感」や「お土産」という部分が強いらしい。僕はまだ未成年だから分からないが、社会人になると出張先や旅行先のお土産は圧倒的にビールが喜ばれるという。たしかに、僕も北海道に行くと、北海道にしかほとんど売っていないコーラをたくさん家を買っていってしまう。こういった「□□限定」のような商品はよく売れる。こんなかんじに「この商品は売れる」と考えて、商品の企画や提案をするのが文系だという。じゃあ理系は何をするのかというと、文系が提案したものを実際に商品化したりする。ビールを 47 種類も味の変化をつけるのは大変だと思うが、それも理系の仕事である。このように、文系と理系が協力して社会は成り立って回っている。僕は理系一本に決めていたが、この話を聞いて文系に行きたいとまではいかないが、文系に興味は湧いてきた。おもしろい話が聞けた。

次は人生についての話だ。人生は遊びと勉強と仕事の3つで成り立っている。学生の頃は仕事がないので、遊びと勉強の2つである。先輩が社会人になって感じていることは、遊びの時間が学生に比べてあまり取れなくなったということらしい。学生のときのように気軽に友達に会うのが難しくなるそうだ。それを聞くとやっぱり学生のうちにたくさん遊んでおくのが良いと思う。でも遊んでばかりではだめだ。勉強が将来の仕事に直結してくるからだ。遊びと勉強の2つの両立は一見簡単そうだが、僕はできていない。特にこの夏休みは勉強が全然だった。前半は余裕をかまして後半になった今とても困っている。このままだと宿題をこなすだけで自分の勉強ができずに終わってしまう。自分の生活を見直すと、何もせずにゴロゴロしている時間や、携帯をいじっている時間が多すぎるので、その時間を減らして勉強にあてて、充実した生活ができたらいいなと思う。

先輩は学生時代から趣味が多かったらしい。僕はこれといった趣味がなく、運動をするくらいだ。趣味が多いと、人間関係も広がりやすいし、楽しいことも多いそうなので、無理に趣味を作ろうとは思わないが、自分が熱中できる何かを見つけたいと思う。

この懇談会で先輩方からたくさんおもしろい話を聞けた。自分達とあまり歳が離れていなく、出身校も同じなので通じ合うところが多くて、有意義な時間になった。OBOGの方々には僕たちの先輩として、ぜひこれからも頑張ってくださいたいと思う。僕も先輩方に負けずに頑張りたい。